

# 技術士 2 次試験に合格して



**船田 晋**  
(ふなだ しんすけ)

## 勤務先

日本工営株式会社

札幌支店技術第一部

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6-2

TEL 011-557-8022 FAX 011-252-0343

E-mail a6603@n-koei.co.jp

■ 専門：電気電子部門(情報通信)、情報工学部門(情報システム)

## 1. 自己紹介

私は1978年東京生まれ、3児(メンズ団子3兄弟)の父です。大学の出身は土木環境系で、地元の製造メーカーで組み込みソフトのエンジニアを勤めた後、アジア太平洋流域水管理研究教育という博士課程を経て、建設コンサルタントに入社しました。

ここ数年は、電気通信設備(特にカメラ、ダムコンなど)の設計を行ってきました。東日本大震災後には国の研究所に出向し、自治体向けの防災情報システムの開発にも携わりました。昨年からは札幌支店に赴任しております。

## 2. これまでの試験

科学技術分野が細分化され、かつ境界領域の分野も発展している中で、私の従事している仕事も対象が多岐にわたっています。専門は土木、環境、電気、電子、情報、機械、農業分野、あるいは複合領域のどれなのか、分からなくなる時があります。そんな迷いもありつつ、技術士試験は、建設、農業、情報工学部門を受験してきました。ただ、「男性の育児参加」を言い訳にして日頃の学習を怠ったことから、結果は毎年不合格。それが当たり前のような感覚になっていました。技術士は、仕事にだけ必要な資格、という意識が強かったのかなと思います。

不合格が続き、なぜこの資格が必要なのか、ともう一度、考えました。「究極のところ、技術士は自分を表現する資格なのだ！ 自分の事だろ、しっかりしろ！」とわが身に喝を入れてから、俄然やる気ができました。

幸い、社内に受験支援セミナーという制度があり、過去に受験した社員から多くの受験のコツ、テクニックを教えてくださいました。また口頭試験に対しても、3回の模擬試験の指導をいただき、自分の不足するスキルを鍛えていただきました。そのおかげで、一昨年度に7回目の受験でようやく情報工学部門で合格しました。

で、一昨年度に7回目の受験でようやく情報工学部門で合格しました。

## 3. 今回の試験

受験のコツをつかむことができたのか、昨年度は電気電子部門にチャレンジして合格しました。口頭試験は難関と聞いていたので、受け答えのイメージトレーニングを必死で行いましたが、体調不良も重なり、やはり直前まで心配でした。そんな時、札幌支店の先輩社員から、「自分の立場を明確にし、技術士として何ができるのかを説明できればいいんだよ」とアドバイスをいただき、とても気が楽になりました。

私が試験勉強で工夫したことは、「仕事の中で問題を作って解く」です。仕事上のお客様からのリクエストを試験の問題文と捉えます。大抵は、「〇〇を検討してほしい。」ということなので、お客様がそのように考えた背景を推測すれば、問題文がそれらしくできます。それに対して、複数の解決案をひねり出し、それがだめだったらどうするかまで考えるようなクセを付けていきました。これで、具体的にリアルな問題と回答ができあがりです。

## 4. 今後の意気込み

日頃思うことを1点。ルーチン的な仕事にどっぷり携わっていると、物事に対する感性、創造力を失いがちになります。人間的なもの、自然との調和、物事の変遷などに対して、感性を磨いていきたいですね。教育現場では今、「STEAM」教育が始まっていますが、私もその中のA(ART)の必要性を感じています。北海道はそれを育むとても良い環境ですので、今後、そういうことも意識しつつ、分野をまたげる技術者を目指していきます。

最後に紙面をお借りして、受験にあたりご指導いただきました諸先輩方に対して御礼申し上げます。